

CLC からしだね書店便り

August
2023

8

* 今月のご案内 *

- ① 読書感想本『子どもたちの太平洋戦争
— 国民学校の時代 —』
- ② 平和について考える店長おススメの本紹介
- ③ 「からしだね通信」での特集記事から考えた
『私達にとって「働く」とは?』

CLCからしだね書店では…

- 1 キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- 2 お洒落でかわいい雑貨や小物もあります。
- 3 ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- 4 コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- 5 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、好きな本を手にとってお読みください。
- 6 古書のコーナーもあります。ほりだしものあります。
- 7 読書会や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。

CLCからしだね書店 & カフェ トライアングル
 営業時間 11:00-17:00
 日曜日と年末年始 (※祝日も営業)
 定休日 毎月第3木曜日は書店のみ営業



第8回 うられたヨセフ



おとなのための 神の物語

子どもだったみなさんへ

- 1 ヨセフの忍耐、ヨセフの知恵、それは神さまから与えられたものでした。そしてなによりも神さまはヨセフの心を守ってくださいました。
- 2 ヨセフの苦難は神さまが与えたものではありません。兄たちの罪。でも、そんな悪をも神さまは用いてくださるお方。「あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。それは今日のように、多くの人が生かされるためだったのです。」(創世記 50:20)とあります。
- 3 人はA地点からB地点に行こうと計画しますが、しばしば計画がうまくいかずにC地点に墜落します。子どもたちだってそうです。でも神さまはそのC地点にいる私たちを、あわれんで、放っておけなくて、計画していたB地点より遥か高みのD地点に私たちをお連れくださいます。
- 4 だから、どんなときでもだいじょうぶです。私たちの考える最善よりもはるかに良いことを神さまはなさいます。やがてイスラエルはエジプトで大きな国民となり、世界の回復のために召し出されるのです。

和紙ちぎり絵：森住 ゆき もりずみ ゆき
 群馬県生まれ。和紙ちぎり絵作家。著書に画文集「アメイジング・グレイス」「ぶどうの気持ち」「日めくり片隅の花でも」(いのちのこぼれ)、"思いを伝える和紙のちぎり絵春夏秋冬"(日貿出版社)がある。埼玉県在住。

- ヨセフの前にはお兄さんたちがいます
- ヨセフをいじめたお兄さんたち
- ヨセフをどれいにか売ったお兄さんたち
- ヨセフが死んだと、
- お父さんにウソをついたお兄さんたち
- ヨセフの目からなみだがあふれます
- 自分でもなぜだかよくわからないなみだ
- 兄さんたちがにくいのか
- 兄さんたちがなつかしいのか
- ただひとつわかってるのは
- 神さまはいつも
- ヨセフのそばにおられたこと
- ヨセフの心が
- いじけて死んでしまわないように
- 守ってくださいましたこと
- そしてこれからも
- みんなの未来を開いてくださること

大頭 眞一 おおずしんいち
 1960年神戸市生まれ。英国マンチェスターのナザレン・セオロジカル・カレッジ(BA、MA)と関西聖書神学校で学ぶ。日本イエス・キリスト教団香登教会伝道師・副牧師を経て、現在、京都府の京都信愛教会と明野キリスト教会の牧師、関西聖書神学校講師、焚き火塾代表。ドリームパーティー発起人。

読書

感想本



『少国民』を作る教育は歩き方にまで及び...

『子どもたちの太平洋戦争―国民学校の時代―』
山中 恒(岩波新書 品切)



児童文学者山中恒が、太平洋戦争開戦前から敗戦後にかけて行われた学校教育や、それに対する子どもたちの反応を、自身の体験も交えて記述したのが、今回紹介する『子どもたちの太平洋戦争』です。山中恒は満州事変の起こった1931年に生まれ、終戦時は中学二年生でした。「自分の子ども期を語るのに、戦争を抜きにしては語れない」「まえがき ii 頁」と言うほどに、戦争に強く影響された子ども時代を過ごした世代です。児童読物作家として、著者は自分の子ども時代にこだわり続けてきたと言います。本書において著者は、子どもたちの作文、中学校の入学考査、子ども向け雑誌、官公庁が発行したPR誌など、当時の多様な史料と著者自身の体験から「戦時下の子ども」の風景を描き出しました。

副題にある「国民学校」は、昭和16(1941)年の「国民学校令」によって成立した教育機関で、従来の「小学校」が改称されたものです。教科は、「皇国民の錬成」という大目標の下に編成され、国民科(修身、国語、国史、地理)、理科(算数、理科)、しかも大谷によると「正常歩」は、「一億一心の『行』」で、「一人以上で歩く場合には、必ず一億一心を歩に体现しなければならず、「自由主義的・個人主義的な歩態を綺麗さっぱりと清算して、新体制に立脚せる、力強い一億一心の歩み」を続けなければならぬのだそうです(68頁)。「自由主義的・個人主義的歩態」とは一体どんな歩き方なのかわかりませんが、歩き方で「新体制に立脚」させなければならぬとは、これ以上の窮屈はなかなかないでしょう。

今となつては「正常歩」など笑ひ話にきこえるかもしれませんが。しかし「正常歩」式の教育の名残は、戦後78年経った現在も生き続けています。たとえば「前へならえ」も、体錬科で厳しく教え込まれたものだと思います。「前へならえ」といえば、この文章を書いている私(平成生まれ)も体育の授業で厳しく仕込まれたのを覚えていますし、「列がまがっていることは、心がたるんでいることだ!」(69頁)という当時の教師の迷信めいた叱責のセリフも、どこかで聞いたことがあるように思います。よく考えると、「前へならえ」とはなんと「非自由主義的・非個人主義的」な動作でしょう。こういうところに、日本において個人主義が育たない理由の一端がある、と言つと牽強付会にすぎないでしょうか。

このような調子で、子どもたちの持つていた自由でプライベ

体錬科(体操、武道)、芸能科(音楽、習字、図画、工作)、裁縫、家事、実業科(高等科のみ)に分けられました。文字通り、天皇を絶対とする「国民」をつくり出す教育機関でした。その「国民学校」でどのような教育が行われたのか。それを具体的に知ることで、戦争が「少国民」一人ひとりの、生活の最も細かい部分にまで影を落としていたことが分かります。

そのような例として、本書に登場する印象的なエピソードを紹介します。

国民学校になってから、「どこへ行つてもはずかしくない歩き方の訓練をする」ということで、歩き方までやかましく言われるようになったそうです。そこで「正しい歩き方」とされたのが、「正常歩」と呼ばれるもので、これは大谷武一という人物が『正常歩』という本で細かく示した「正しい歩き方」です。17項目もの注意点が挙げられており、読むだけでもうんざりします。この「正常歩」が、体錬科において厳しく指導されました。

トな領域が戦争の進展とともに天皇絶対の価値観に侵食されていく様が、具体的なエピソードを通じて語られています。

他方で、大人の押し付ける価値観が、子どもたちだけの遊びの場の価値観を完全に消し去ったわけでもなかったようです。そのことを示す興味深いエピソードがあります。敗戦後に行われた教科書の墨塗りです。著者によると、教師たちが「泣きながら墨を塗らせた」とか「からだじゅうに墨を塗られるような気持ちの悪い思いであった」などと言っていたのに対して、子どもたちの方は案外平気で、むしろ楽しんで教科書の墨塗りをやっていたというのです。

子どもたちは、あまり深刻には受けとめていなかった。教科書に墨を塗るなどという、想像もしない体験に興奮して、「つきはどこを塗るんですか、先生」と催促して、教師をとまどわせたりした。『初等科国語四』などは、墨を塗ったばかりでなく、「なんページから、なんページまで切り取れ」というので、三分の一のうすさになってしまった。それに対して子どもたちは、「うわあ、この分勉強しないでいいんだ」とよろこびの声をあげて、教師をがっかりさせたりした。(202頁)

このような軽薄さが子どもたちの中にわずかでも残っていたということに、希望を感じます。逆に言うと、当時の教育がめ

CLC書店便り連載中の

子どものための神の
ものかた!

で挿絵を描いています!!

「森住ゆき和紙ちぎり絵カレンダー」
2024年版店頭にて販売いたします。



森住ゆき和紙ちぎり絵カレンダー
2024年版CLCからしだね書店で販売中!!

1320円(税込)ご予約も承っております、お早めどうぞ。

FAX 075-574-0025
書店メール clc@karashidane.or.jp



ざしていたのは、こうした不真面目さ、軽さ、ユーモアなどを子どもたちの生活から締め出してしまうことだったのでしょうか。著者は、佐々木邦やサトウ・ハチローのユーモア小説が、戦争が進むにつれて、行儀がよくてつまらないものになっていったことも記しています。

著者によると、こうしたプライベートな遊びの領域こそが、当時の教育に飲み込まれないために重要な役割を果たしました。大人から独立した自由な世界を持つているからこそ、学校教育の理念に自分なりに疑いの眼を向けることができたのです。反対に、そういう領域を持たない子どもたちは、「逆に教師たちを突きあげ督戦するようになった」(213頁)と言います。

現在ではあからさまに「天皇絶対の皇国民を育成する」というような教育は行われていません。しかし子どもへの歩き方を規制し、遊びの中にまで大人の価値観を忍び込ませるような戦中の教育と、本質的なところで似通ったことが行われていないか、見直す余地はあると思います。特に八月は戦争について考える機会が多くなります。本書などを図書館で借りて読み、「子ども」「教育」という視点で戦争のもたらす影響に思いをめぐらしてみたいかががでしょうか。

【書店員 凱】

CLC書店便り連載中の

子どものための神の
ものかた!

でおなじみの挿絵

おはなし 大頭 眞一 から
森住 ゆき

おしらせ

焚き火を囲んで聴く
キリスト教入門

いのちのことば社
著者・訳者など：大頭眞一と
焚き火を囲む仲間たち
1300円+税



ちらっと
中身拝見!

日めくりカレンダー
いのちのことば社
絵とことば：森住ゆき
1400円+税



どちらも店頭、左記のFAX番号
・メールアドレスで承っております



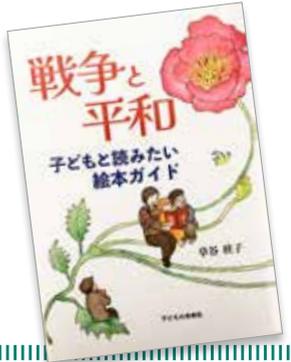


戦争・平和について考える 新刊紹介

八月は平和について考える機会が多いので…
店長セレクトの

『戦争と平和』

——子どもと読みたい本ガイド——
草谷桂子著
子どもの未来社
16550円(税込)



著者は、静岡市の自宅で家庭文庫を開く児童文学作家です。これから生きる子どもたちに、平和について伝えたいことはたくさんありますが、さて、どんな本を選べばよいのか…と迷ったときに、とても役に立つ「本を紹介する本」です。でも、ただ「こんな本がありますよ」と紹介しているだけではありません。紹介しながらも、著者の平和への思い、小さないのちへの思い、戦争によって踏みじられていくたくさんの美しいものへの思いが、伝わってきて、紹介するだけの本なのに、読んでみると、なんだか泣きそうになります。草谷さんは「まずは楽しくくつろげる絵本を手渡し、他者を想像する力を養って」とメッセージを送っています。

『世界で最後の花』

——絵のついた寓話——
ジエール・ス・サーバー著
村上春樹訳
ポプラ社
17600円(税込)



この本は、1939年11月に刊行されました。その2カ月前に、ナチス・ドイツ軍がポーランドに侵攻し、第二次世界大戦が勃発しています。これから世界が破壊されていくというききな臭い空気の中で、平和を願うこの本が書店の棚に並んだのです。
著者は、1932年に誕生した娘、ローズマリーにこの本を捧げています。「君の住む世界が、わたしの住む世界よりもっと善き場所になっていることをせつに願って」とありますが、これは世界中の親の思いではないでしょうか。
「みなさんもごぞんじのように、第二次世界大戦があり、文明が破壊されてしまいました。で始まるこの本は、人間が、懲りることなく、戦争を起して痛い目にあい、平和な世界を望み作り上げ、また戦争に向かっていくという愚かな姿を描いています。どうしたらこれをストップさせることができるのでしょうか？正直なところ、第二次世界大戦は起らないと思います。それまで、地球はもちませんから。」

『うけとろうへいわ』

——子どもと読みたい本ガイド——
文：北島峯子
絵：鳥羽あがし
いのちのこぼれ社
11000円(税込)



十戒のなかにあふれている、神の深い愛を、平和とどう語り口からときほぐしていきます。前半は子どもにもわかる言葉で、後半は大人に向けて、著者自身の体験も紹介しながら語られます。十戒と書いて、なんだか「神の命令」のように思ってしまうのですが、じつは人間が幸せに平和に生きるために必要なこととしたためた、神様からのラブレターなんだなあ、と思います。たとえば9の戒めはこのように書かれています。

「その ことばで よわくされ
ひとりぼっちの 人を見つめよう
きつと何かが見えてくる ゆうき
をだして つたえよう 『あなたは
わるくない』と。」(23)

『もしも人生に戦争が起ったら』

——子どもと読みたい本ガイド——
居森公照著
いのちのこぼれ社フロレストブック
15400円(税込)



「伝えずには、逝けない」とおっしゃる著者の公照さんは、1935年生まれ。1934年広島生まれの妻、清子さんは、被爆体験の語り部として10年間にわたり、平和のメッセージを語り続け、2016年に亡くなりました。語り部としての日々を、神様から示された使命として生き抜いた清子さんと、清子さんが天に召された後も、ともにその使命を生きておられる公照さん。ご夫婦の歩みは、貴重な証言であり福音です。本の帯に「戦争は、決して、昔話、ではない。何度でも起こりうる」という一節が紹介されています。さきに紹介した「世界で最後の花」の著者はアメリカから、同じメッセージを世界中に向けて送っています。原爆投下した国の人と、原爆を落とされた国の人立場は違えど、その痛い体験を通して語るメッセージは、「平和」です。

「働き方改革」と「ワークライフバランス (仕事と生活の両立)」

●家事や育児、介護をしながら働くことができる社会の実現のためには、多様な働き方を提供できる企業の努力が必要だとされています。●そのための「ワークライフバランス」という考え方は、「仕事を減らして楽をする」ということではなく、ましてや「仕事を優先させて生活を犠牲にする」という考え方でなく、仕事と生活が相乗効果を生み出すような理想的なバランスのとれたそれぞれの配分のことなのだそうです。●でもこの「バランスを保つ」って、なかなか難しいですよ。人によってもちょうどよいバランスのとり方は違うでしょうし…特にひと昔前「24時間、働けますか？ビジネスマ〜ン！ビジネスマ〜ン！」というエナジードリンクのCMソングが流れていた日本においては…。●教会と家が同じ建物という牧師さんもおられますが、どのあたりで「教会」と「私生活」を分けておられるのでしょうか…？相乗効果をもたらすバランスの「教会」と「私生活」とは…？

お父さんにも「育児休暇」を！

●数年前には考えられなかったことですが、父親にも育児休暇取得が推進されるようになりました。常時雇用する労働者が1,000人を超える企業は、年に1回、男性育児休業の取得状況を公表する義務が課せられるようになったそうです。友人の息子さんも、あかちゃんが生まれてから2カ月間の育児休暇をとったと聞いて、「すごい！」と思いました。お父さんもお母さんも、育児休暇を遠慮せず取るためには、職場全体の工夫と協力が必要だろうと思います。●どうか牧師さんにも育休を！



書店運営している「社会福祉法人ミッションからしだね」は、8月に書店日より8月号と同時に「からしだね通信」2023年8月号を発行しました。今回のテーマは「就労支援って、これでいいの？」でした。CLCからしだね書店は障がいのある人達の就労支援の場として位置づけられているのですが、さて障がいの有無にかかわらず、私達にとって「働く」とは、どういふことなのか？

店頭にも置いてます！

見？☆

「FIRE (Financial Independence, Retire Early) = 経済的自立と早期退職」という生き方

●「FIRE」というのが、新しいライフスタイルとして、注目されているそうです。給与所得を得ずに不動産や投資で経済的に自立できるようにしたうえで、30代40代で早期退職し、余生は自分の趣味や遊び、やりたいことを満喫しながら暮らす生き方だそうです。●短い一生をどのように生きるかは、人それぞれですが、もし自分がたまたま大金持ちになってしまった(?!),「もう働かなくてもいいですよ」と言われたら、はたして働かない生き方を選ぶものなのでしょうか？働くとは、人間にとって経済的な自立だけではない、「なにか」があるような気がします…。

古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただけるとありがたいです。(受付できないものもありますので事前にお知らせください。ご事情により当店より回収に行かせていただくこともあります。ご相談ください)

【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本 (多量、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし (料理、健康、経済等) にかかわる本
- 5 小説 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

百科事典・辞書・開封済みのCD・DVD・月刊誌・週刊誌等は受け付けておりません

【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX：075-574-0025
Mail：clc@karashidane.or.jp

【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

【献本感謝】

浅井省二様、大橋弘様、高橋柳子様、福本佐和子様、村上様 (7ヶ月ぶり京都)、荒井美江子様、久保悦子様、杉浦孝夫様、今村祐三宣教師、中村千恵美様 (順不同)

7月の古書の収益は41,615円でした。【古本の売上を含むCLCからしだね書店の収益は、すべて、書店で働く障がい者の工賃になります】献本くださった方のお名前を書店でよろしくご紹介させていただきたいと思っております。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

編集後記

- ◆コロナウィルスの脅威はなんとなく薄れたような、でも感染者は身近なところで増えてきて、感染しないように細心の注意をはらっていた人も感染しています。◆8月は毎年、平和について考える月です。読書感想本では、「子どもたちの太平洋戦争」を取り上げました。私の叔母も「教科書の黒塗り」をした一人ですが、そのとき、どんな気持ちだったかを尋ねたところ「何も考えず、言われるままに、そんなもんだと思って塗った。先生も事務的にあたりまえのように指示していた」とのことでした。戦争体験者がどんどん少なくなっています。聴けることはたくさん聴いておきたいと思っております。
- ◆どうぞ皆様、暑さや感染症に負けず、心身ともに健康にお過ごしください。【店長】

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援A・B型事業所からしだねワークス
からしだね書店&カフェ・トライアングル
〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025
書店メール clc@karashidane.or.jp

CLCからしだね書店便りの
バックナンバーはこちらから

